

ベトナムの再生可能エネルギー拡大と課題

2025年2月26日 作成

カテゴリ ベトナム市場調査 環境・再生可能エネルギー

ベトナムの再生可能エネルギー拡大と課題

世界的な気候変動による影響が深刻化する中、再生可能エネルギーへの転換は不可欠であり、ベトナム政府もこの分野の発展を重視している。2023 年末時点で、ベトナムの再生可能エネルギー（風力・太陽光）の総発電容量は 21,664MW(メガワット)に達し、全電力供給の約 27%を占めている。特にベトナムは、東南アジアで最も再生可能エネルギーの成長が著しい国とされており、豊富な水力、太陽光、風力資源を有する。

ベトナム政府は、2015 年に再生可能エネルギー発展戦略（決定 2068/QĐ-TTg）を発表し、2030 年までの拡大を目指している。再生可能エネルギーへの投資は近年急増しており、2018 年には 5.2 億ドル、2019 年には国全体の投資分野で第 3 位となった。特に太陽光発電では、2018 年から 2019 年にかけて 330 以上のプロジェクトが政府の承認を受け、2030 年には 7,200M の発電能力を目指している。

しかし、ベトナムのエネルギー供給は依然として化石燃料に大きく依存しており、Petrovietnam は年間 13.5 百万トンの石油、6~8 億立方メートルの天然ガスを生産し、国内需要の大部分を満たしている。ただし、石油・ガス資源の枯渇が進み、輸入依存が高まっている。2030 年までにベトナムの化石燃料輸入量は 2019 年比で 3 倍、2050 年には 8 倍に達すると予測されている。

このような状況を受け、ベトナム政府は再生可能エネルギーの導入拡大を加速させる方針を打ち出している。2025 年までに再生可能エネルギーを電力システムに統合し、2030 年には全エネルギー供給の 32.3%、2050 年には 44%を再生可能エネルギーで賄うことを目標としている。これにより、温室効果ガスの削減とエネルギー安全保障の強化が期待されている。

ただし、再生可能エネルギーの拡大には多くの課題がある。特に財政面の問題が大きく、インフラ整備や発電技術への投資が求められる。さらに、電力網の未整備や人材不足も障害となっている。政府は、これらの課題を解決するために政策の見直しを進めており、国内外の企業の投資を促す環境整備を進めている。

今後、ベトナムが再生可能エネルギー分野でさらに成長するためには、政府の継続的な支援と投資誘致、技術革新の促進が不可欠である。

以上